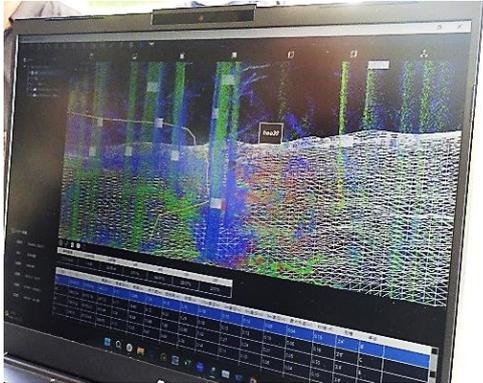


林業ミニ情報 No.172

令和6年7月

- 1 林業DX及びJクレジットに係る森林測量デモンストレーション
について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
(常陸太田林業指導所 村田)
- 2 白砂青松再生プロジェクトについて・・・・・・・・・・・・・・・・3
(鉾田林業指導所 綿引)
- 3 観光拠点施設整備（息栖神社周辺整備事業）について・・・・4
(鉾田林業指導所 綿引)

タイトル	林業 DX 及び J クレジットに係る森林測量デモンストレーションについて
年月日	令和6年5月21日（火）
場所	常陸太田市里美地区保健センター駐車場及び隣接市有林
内容	<p>令和6年5月21日に、当指導所管内において、筑波銀行主催により、林業 DX 及び J クレジットに係る森林測量のデモンストレーションが実施されました。</p> <p>今回は、県内森林組合職員及び管内市町林務担当者等が参加しました。最初に、筑波銀行から J クレジット申請に必要な森林情報収集に係る説明があり、その後、測量機器の開発者である株式会社マプリアからレーザーによる測量システム（通称ライダー）による森林測量デモンストレーションが行われ、林内現況調査等の省力化を図る先進技術活用の検討の場となりました。</p> <p>デモンストレーションでは、ドローン搭載型ライダー及び背負い型ライダーの2種類の機器について、マプリアから実演を兼ねて説明がありました。参加者も実際にライダーを操作し、連携させた手元のスマートフォンの画面で自分の位置情報を確認しながら、従来のコンパス測量に比べ時間と労力の削減効果が高いことが体感できました。</p> <p>また、林内踏査時にライダーにより収集した森林情報を専用のパソコン解析ソフトで表示すると、樹形や樹高、地形などを可視化でき、材積率などの情報も確認できることが紹介されました。</p> <p>当指導所では、林業経営体等の育成・支援を図るためにも、新たな制度や先進技術の活用事例などの情報収集を積極的に行い、普及していきます。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>背負い型ライダー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ライダーにより収集した森林情報 (樹形や樹高、地形など)</p> </div> </div>

普及成果等	Jクレジット制度は、クレジット創出に係る申請資料作成に多くの森林情報が必要となるため、実際に林内踏査を行う時には先進技術の活用は省力化になると林業経営体も実感しています。普及指導員においても、新たな技術の活用を指導できるよう研鑽を積んでいきたいと思ひます。
-------	--

タイトル	白砂青松再生プロジェクトについて
年月日	令和6年3月3日（日）
場所	神栖市豊ヶ浜
内容	<p>去る3月3日（日）、神栖市波崎の豊ヶ浜海岸において「第10回白砂青松再生プロジェクト」が開催されました。</p> <p>この取り組みは、神栖市美化運動推進連絡協議会と市が「茨城県神栖市海岸防災林等の整備等に関する協定」として平成26年度に10年間の協定を締結し、海岸の植栽・整備を協働で進めているものです。なお、当初の協定期間は令和5年度末までとなっていたことから、令和6年1月15日に再締結し、引続き10年間、マツ林の再生に取り組むこととなりました。</p> <p>当日は、市長をはじめとする市関係者、地元の小中学生、一般参加者を含め、約600名が参加しました。式典会場から植樹会場へは、今までに植樹された苗木が大きく成長した姿を眺めながら移動し、今年は、新たに約3,500本の松くい虫に強い抵抗性クロマツの苗木を植樹しました。</p> <p>参加者は、毎年参加している方、小さなお子さんと一緒に家族で参加している方など様々でしたが、未来の白砂青松の再生を願いながら、思いを込めて、全員が1本ずつ丁寧に植えていました。</p>
普及成果	<p>私達の生活環境を守っている海岸防災林は、現在も松くい虫等による被害受けております。当林業指導所としても、海岸防災林の機能の再生を図るための活動、取組に引き続き支援していきたく思います。</p>



タイトル	観光拠点施設整備（息栖神社周辺整備事業）について
年月日	令和5年12月～令和6年3月
場所	息栖神社（神栖市息栖）
内容	<p>神栖市は、令和3年3月に作成した「まちなにぎわいづくりプラン」により、地域の活性化を図るための周遊拠点として、息栖神社を位置付け、神社周辺の観光拠点施設、市道、船溜まり等の整備を一体的に行うこととしました。</p> <p>このうち、観光拠点施設は、木造2階建て、延べ床面積709.20m²、息栖地域の歴史や文化に配慮した「和」を基調とした意匠とし、1階には市の特産品や農水産物を販売するスペース、市の魅力や観光地を案内するスペース、カフェなどを置くほか、2階には眺望を活かした飲食スペース、テラスを設ける計画となっています。</p> <p>今回、木造による整備計画であることから、県産木材の利用について、市と打合せを行ったところ、木材を含む資材の調達が難しく、県産木材に指定することで、令和6年度内の完成に遅れが生じてしまうことを懸念しているようでした。</p> <p>そこで、県産木材の調達に対する支援を行っている、茨城県産材普及促進協議会と連携し、協議会から派遣された木造建築コーディネーターとともに、再度打合せを行いました。</p> <p>本県では物件ごとに対応できるサプライチェーンが構築されていること、また、木造建築コーディネーター制度を活用したこれまでの実績などについて、丁寧に説明を行った結果、市が懸念していた木材調達に起因する工期の遅れ等について、不安を払拭することができ、県産木材を使用することとなりました。</p>
普及成果	<p>当林業指導所は、引続き木造施設建設等の情報の収集に努め、関係機関等と連携することで、県産木材の使用について働きかけを進めてまいります。</p>

